

むさしの景観だより

景観まちづくり講座

「街の見方～何がどうなっていると街が魅力的に見えるのか～」を開催しました

第9号

平成30年
12月発行

11月17日(土)に、武蔵野プレイスにて景観まちづくり講座「街の見方～何がどうなっていると街が魅力的に見えるのか～」を開催しました。



講師に堀繁先生(一般社団法人まちの魅力づくり研究室理事、東京大学名誉教授)を迎え、街の見方のポイントや、武蔵野市をより魅力的にするためのヒントをお話いただきました。

参加者の皆さんからは、「話が明快でわかりやすく大変面白かった」、「実際に街を歩く際に見方が変わると思う」といった感想をいただきました。



堀先生による講座の様子

講座の概要

街は、誰かがつくっているもの

誰もが「いい街だな」と思える街は、「いいな、歩いてみたい」と思ってもらえるように考え、工夫してつくられている。武蔵野市の街を歩くと、樹形を活かした街路樹や、自然護岸として整備した仙川などをはじめとして、民間と行政双方で積極的な取り組みが行われていると言える。

街を良いと感じる理由

外観のしつらえが異なる2枚の店舗の写真を見比べ、何かを見て良いと思うときは多

くの人に共通する理由があること、また見るものから無意識にメッセージを受け取っているということを確認した。



見比べた2枚の写真

人の評価の特徴

人が何かを見て評価をするとき、3つの特徴がある。

①「誘う形」を評価する *お入りください!* *お座りください!*
例: 店舗のオープンな入口、軒下の縁台

②「丁寧な形」を評価する *どうぞ! お入りください!* *どうぞ! お座りください!*
例: 店舗の入口に掛けられた暖簾、縁台の上のゴザ

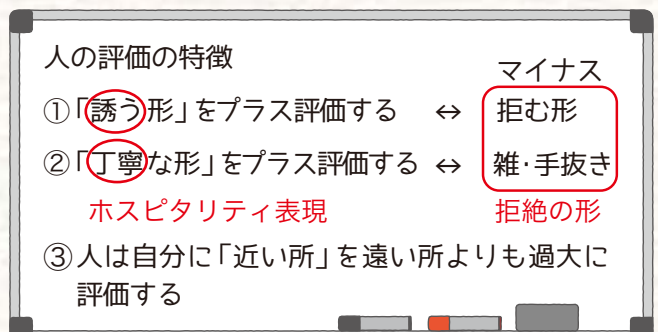
③自分に「近い所」を遠い所よりも過大に評価する
例: 川の向こうの大火事よりも、隣の家のボヤの方が自分にとっては重大なこと

これを街に当てはめると、街を歩くと「沿道の建物」よりも「道」の方が自分に近く、街の魅力に大きく関わると言える。



人は街の見た目から、直感で魅力を感じているんだね。

講義メモ



人の評価の特徴を示すための板書

七井橋通りを読み解く



丁寧に造られた道路の舗装から「どうぞお通りください」というメッセージが受け取られ、道に向けてお店が開かれているので「歩いてみたい」と感じることができる(七井橋通り)



会場の皆さんが講義に参加しながら進む様子

道におけるホスピタリティ表現

街の魅力に大きく関わる「道」をより魅力的にする、3つの要素がある。

①道の幅

歩道の幅が車道よりも広いなど、ゆったりと歩ける道は「車よりも人を大切にする」というメッセージとなる。

②ベンチ

ベンチはそのものが「どうぞくつろいでください」というメッセージとなる。数が多く、密度が高いほど、そのメッセージが伝わりやすい。



③目よりも下のデザイン

歩行者に一番近い建物の1階部分にホスピタリティ表現をするほど、通りは魅力的になる。歩行者の視線よりも上にあるものは、ほとんど目に入らない。



植栽がホスピタリティの表現となっている(ペニーレイン)

武蔵野市の街をより魅力的にするためには

街をさらに魅力的にするため、ベンチの数を増やす・密度や質を高めることや、舗装にゲシュタルト舗装(模様を言葉で言い表せる舗装)を施すことなどが考えられる。



樹木や柵を人が通りやすい配置にするなど、人を大事にしているというメッセージが伝わるようにすると良いんだね。

質疑応答

講義の後、会場より「住宅街の魅力については、どのように考えたら良いのか」という質問がありました。

堀先生からは、「商業地のような賑わいは必要とされていないが、地域の人が気持ちよく住めるような適度なホスピタリティ表現があると良いのではないか」という回答を頂きました。



問い合わせ

〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28 武蔵野市 都市整備部 まちづくり推進課

電話: 0422-60-1872 ファクス: 0422-51-9250

Eメール: SEC-MACHIDUKURI@city.musashino.lg.jp



Facebookページ <https://www.facebook.com/musashinoscape>